

保育計画成果報告書

法人名等	広島医療生活協同組合
施設名	共立どんぐり保育園
報告者（役職）	石井 奈美（副園長）
住所・連絡先	広島市安佐南区緑井1-3 1-3
	☎ 082-577-1152
	E-mail: kyouritsu_donguri@yahoo.co.jp

○タイトル（保育計画）

手足・五感を使って「あーおもしろかった」の体験を積み重ねよう

○主な助成備品

ミニジャングラミング

1. 保育計画策定の目的

- ・保育園開園に伴い、子どもたちの登降園の様子を観察してみると、歩いてくる子どもたちはほとんど見受けられず、総合的に運動の機会は少ないと思われる。

今回、ミニジャングラミングが設置されたことで、様々な運動機能を高めることが想定される。この空間を利用して、遊びを自由に選んで友達と楽しむ中で、自然と運動機能が高まることが予想される。

- ・高さに対する危険予知能力や空間認知能力が高まる。
- ・腕の力で自分の体重を感じることも経験でき、腕力・脚力などが強化される。
- ・遊んでいく中で様々な部位を総合的に調整しながら筋力や体幹を養い、空間を認識しながら安全に移動していく力を身につけていくことができる。

2. 具体的な実施内容

- ・大きいクラスの子どもたちがやっていることを年下の学年の子どもたちは目で見学することから、やってみたくて意欲を持ち自ら挑戦しようとする。



【滑り台】

滑り下りる際の爽快感を味わったり、前傾姿勢を保ちながらスピードをコントロールする力を見につけるなど、年齢や個人差に応じて個々に挑戦する。

逆さ登り：足の裏を使って腕で手すりをもち、自分の体重を感じながら重力に逆らって、斜面を登っていくことで様々な筋力アップを図る。



- ・滑り台で遊ぶ際には、順番を守って安全に滑り下りる。

- ・滑り台につながる平面部分では、一旦滑ろうとする体勢を整えてから滑るがお腹を下にするのか、座って正面を向いて滑るのか、体勢を考えようとする「間」も確保できる。



- ・ミニジャングラミングのジャングルジムに相当する部分では、腕の力で自分の体重を支えながら、更に上部に引き上げていく。低年齢児では、引き上げるタイミングで腕を離せば落下する危険を伴うことから、安全には配慮しながらも、子どもたちの横移動や縦移動に挑戦する意欲を支える。



- ・また、下の空間を使って障害物のような棒があっても、ぶつからずに上手く空間を認識しながら鬼ごっこやくぐり抜ける遊びを楽しむ。

- ・小さな雲梯のようにして、自分の体重を腕で支えながら遊ぶ。
- ・小さな鉄棒のように飛びつきよじ登ることもできる。

3. その成果と評価

1歳児クラスでも、年度後半になると、保育士が傍で見守る中で、自分の足で1段に足をかけて登ろうとしたり、大きい子どもたちの真似をしながら、2段目までよじ登ろうとしていた。日頃からくぐったり、登ったり滑り下りたり、何度も自分から挑戦することで、個々の力に応じた援助を行うことができ、安全に遊べるようになった。



- ・取り組みはじめは思うようにできないことから、何度も繰り返す中で腕の力や体全体の調整力が育ち、最後まであきらめずに挑戦しようとする忍耐強さも培うことにつながった。
- ・高さに対する抵抗感やよじ登る時の足の踏ん張りや全身の筋力を使うこと、手足を交互に使って上がっていく方法も考えながら、落ちないようにしっかり手で握り、持ち換えたりするなど上手に登れるようになった。

4. 今後の課題と展望

- ・日常的に短時間でもいいので、定期的に取り組むなどの連続性があると前回やった時の経験をもとに工夫を重ねていけるので、天候を確認しながら使用できる頻度を確保していきたい。
- ・園の事情だが、ミニジャングラミングの置いてある園庭は水はけが悪く、雨天の後はなかなか利用できないので、使用しやすい条件を作っていきたい。
- ・異年齢の友達で刺激しあって、より意欲的に取り組めたらいいので、そうした機会を意識的に作っていきたい。

以上